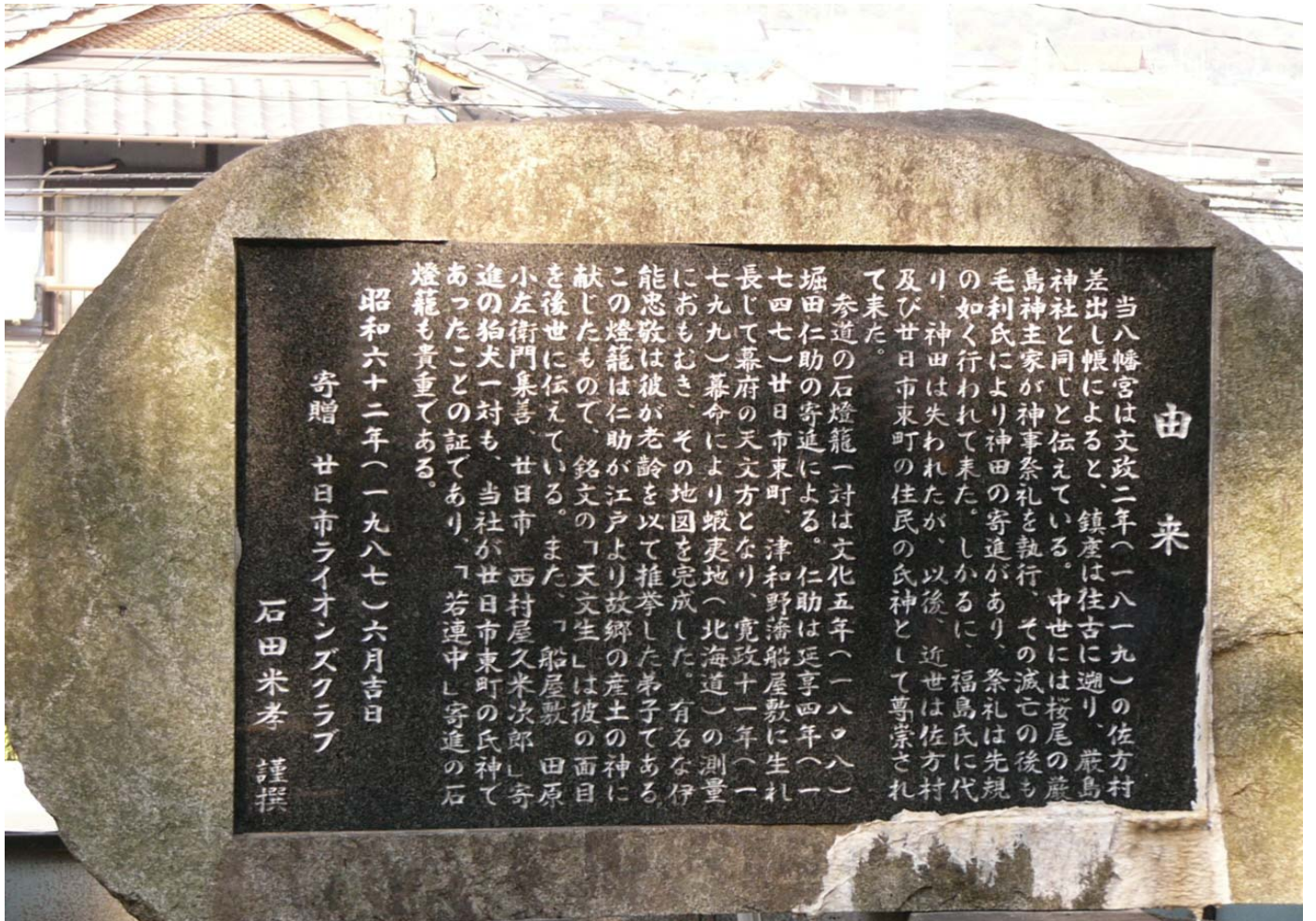


① 佐方八幡神社



由来

当八幡宮は文政二年（一八一九）の佐方村差し出し帳によると、鎮座は往古に遡り嚴島神社と同じと伝えている。中世には桜尾の嚴島神主家が神事祭礼を執行、その滅亡の後も毛利氏により神田寄進があり、祭礼は先規の如く行なわれて来た。しかるに福島氏に代り神田は失われたが以後、近世は佐方村及び甘日市町の住民の氏神として尊崇されて来た。

参道の石燈籠一対は文化五年（一八〇八）堀田仁助の寄進による。

仁助は延享四年（一七四七）甘日市東町津和野藩船屋敷に生れ長して幕府の天文方となり、寛政十一年（一七九九）幕命により蝦夷地（北海道）の測量におもむき、その地図を完成した。有名な伊能忠敬は彼が老齡を以て推挙した弟子である。

この燈籠は仁助が江戸より故郷の産土の神に献じたもので、銘文の「天文生」は彼の面目を後世に伝えている。

また「船屋敷田原小左衛門集善、甘日市西村屋久米次郎」寄進の狛犬一対も当社が甘日市東町の氏神であったことの証であり、「若連中」寄進の石燈籠、「甘日市西村屋久米次郎」寄進の狛犬一対も貴重である。

昭和六十二年（一九八七）六月吉日

寄贈 甘日市ライオンズクラブ 石田米孝 謹撰